

最優秀賞

土砂災害から大切な人と自分を守るために

みよし市立三好丘中学校 1年 林 希々羽

皆さんは崖崩れや土石流の怖さを楽観視してしまっていないでしょうか。しかし、近年異常気象が多発しており、50年に一度と言われているような大雨が約1年に1回の頻度で起きています。

これまで私の住んでいるみよし市ではあまり災害が起きてきませんでした。2023年6月2日に大雨警報と洪水警報が発令されました。幸いこの日は、私の家はあまり被害を受けませんでした。ただ、私の家は山に近いので土砂崩れが心配になり、大丈夫か父に聞いてみると、家の近くにある山は傾斜が緩やかで崩れにくい形をしているため安全だということを見せてくれました。また、低い土地が周りにたくさんあるので水害の心配もなく、山を削って整備をした土地であるため地盤がしっかりしていて、地震が起こった時にも家が傾く心配がありません。そのため、私の家はよほどのことがない限り被害を受ける心配が無いことがわかりました。

このことをきっかけに私はみよしの土砂災害警戒区域を調べてみました。すると、私の家は土砂災害警戒区域に入っていないのですが、祖父母の家が土砂災害警戒区域のイエローゾーンに入っていることがわかりました。土砂災害警戒区域のイエローゾーンでは土石流に注意しなければいけないのですが、祖母は大雨が降ったとしてもよほどひどくて床上浸水までだと言っていました。やはり今までに土砂災害などが起こったことがないため、私の家は大丈夫だろうと土砂災害のことを楽観視してしまっています。土石流は山から崩れた土や石が水と一緒に混ざり、ものすごい勢いで流れてくるという危険性があります。そのため、油断してしまい、何も備えをしていないといざ土砂災害が起こったときに大きな被害を被ってしまうかもしれません。

最近では地球温暖化の影響もあり、異常気象が多発しています。そのため、これまで大規模な災害があまり起こって来なかったみよし市でも、2023年に大雨警報や洪水警報が発令されるくらい気候が変わってきてしまっています。いつ、どんな災害が起きるかわからないため、常日頃から災害への対策をしておくことが大切です。そして、国や行政に頼りすぎるのではなく、私たち個人でできることから実行していかなければいけません。というのも最近では人手不足が深刻化しているため、被害が大きくなると国や行政だけでは対応しきれないことがあるかもしれないからです。ですから、あらかじめ私たちが土砂災害に対しての対策をしておくことができれば、被害を小さくすることができ、さらには国や行政の負担を軽くすることができます。まさに、一石二鳥です。

そして、私たちができることは土砂災害の前兆現象を確認したり、防災グッズを用意したりするなどたくさんあります。土砂災害の前兆現象として挙げられるのは、崖や地面にひび割れが起きたり、小石が山の上から落ちてきたり、地鳴りや山鳴りがしたりすることなどがあります。こうした前兆現象を確認したら、土砂災害が発生する恐れがあるため、なるべく安全な場所に避難をすることが大切です。さらに防災グッズの中には、飲み物や手間なく食べることができる食品、懐中電灯、携帯式トイレ、折りたためるヘルメット、電池式のモバイルバッテリー、身分証明書などを入れておくと良いと思います。

災害が起きた時に最も大切なことは、自分が住んでいる地域のハザードマップを見て自

分で自分の身を守る自助を行うこと、地域の人たちと一緒に助け合いながら災害から身を守る共助を行うことです。そのためにも日頃から地域の人に挨拶をしたり、一緒にボランティア活動に参加したりして何かが起こった時に一緒に助け合うことが大切です。実際に東日本大震災が起こったときに大船津市の女性は地域の人が津波に気づき、放送などが聞こえない中で大声で警告をしてくれたため近隣の住民と一緒に避難をすることができました。このようなことは他の地域でも起こっています。そのため、より共助の重要性が広まっていきました。

そして冒頭でもお伝えしたように、土砂災害などの自然災害のことを楽観視してしまっている人が非常に多いことが現状です。ですから、最近の自然災害の起こりやすさをしっかり理解して、そしてまだこのことを知らない人に教え、広めていくことが大切です。私も大切な祖父母などに教え広めていって、災害で受ける被害を小さくし、大切な人と自分を守っていきたいです。